

自己評価および外部評価結果

事業所名: グループホーム回生荘

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者やご家族の皆様、および職員等が見やすい所に大きく手作りの理念を掲示して、いつでも目に入るようにしている。 ミーティングや少し手の空いた時などに理念に基づくサービスの提供について話し合いをしている。	玄関からすぐ目に入る場所に法人全体の基本理念を掲示し、「いつも心穏やかにニコリ笑顔の我が家です」をグループホームの目標として支援計画に反映し、日々実践されているか職員ミーティング等で確認している。起床や食事、入浴時間等を一律にしない取り組みをし、個別支援を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会のサロンなどに出かけている。 回覧板を利用すあと一緒に隣の家に届けに行っている。 グループホームの行事やイベントなどに参加していただき一緒に楽しんでいる。 地元の幼稚園児の訪問がある。	自治会に加入し、回覧板を回したり職員と一緒に地域で開催しているサロンに参加している。サロン、事業所の納涼祭、餅つき等のイベントを介して地域住民との交流がある。また、地元の幼稚園児の散歩コースであり、事業所内でお遊戯会の歌の練習をする場にもなっている。近所の方が野菜を提供してくれたり、知人の面会も多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の相談窓口になっている。 地域サロンに参加して、認知症の理解について話している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の運営状況や行事等について報告し、勉強会や意見交換の場として活用し、得た情報や意見をサービスの場に還元している。	運営推進会議は2か月に1回開催され、自治会長、民生委員、施設長、地域包括支援センター、家族会長、家族、管理者がメンバーとなっている。主に勉強会や情報交換の場として意見を出し合っている。外国人雇用の課題について、事業所の実践を話題提供し意見交換できた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、運営推進会議以外でも随時必要に応じて連携を取り、助言や指導を受けている。	運営推進会議だけでなく、事業所の運営やサービス利用について市担当者とは協議したり、助言を受けている。必要に応じて情報交換を行い、連携できる体制が整っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの施設内研修を行ったりして、スピーチロックも含め取り組んでいる。 玄関はシステム上グループホームのみのオートロック解除ができない。庭から外へのフェンスは施錠しておらず自由に入出力可能。	法人全体の研修は年4回、事業所独自でも4月から2回実施しており、この中で身体拘束についての伝達研修があり、全職員が受けている。研修後に管理者が問題を作成し、職員に自己採点してもらうことで、新たな気づきがあった。スピーチロックも含め、職員相互に注意し合える環境にある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修やミーティングを利用し、虐待に関する認識を深め、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研や市町村等で行なう研修に参加したり、市町村の担当者等に必要時相談したりしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等はその都度充分な説明をし、理解、納得を図っている。いつでも質問や相談には対応できるようにしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の連絡先を提示しており、またご意見箱を設置している。家族や利用者の意見を運営推進会議やミーティング等を利用し検討、反映させている。	苦情相談窓口や意見箱の設置はあるが、面会時等に直接言ってくる場合が多い。家族から出た希望や意見は運営推進会議や職員ミーティングを活用して意見交換し、改善できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との関係性を重視し、意見や提案を出しやすい職場環境づくりをしている。日常的に意見や提案を聞いている。職員会議や管理者会議で検討、反映させている。	日常的に職員の意見を聴く機会があり、提案等についても職員会議や管理者会議で検討し、業務に反映している。12月に職員のヒアリングを実施し、勤務体制や異動希望等の意見を聴く機会があり、職員の働く意欲の向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年評価を行ない、職場環境・条件の整備に努めている。労働時間の調整や業務内容の精査・見直し、適度な有給休暇の取得等、職場環境・条件の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修情報を提供し、希望に応じて参加させている。法人内部での各委員会からの要望を受け、外部講師を呼んだりして研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際に他施設の職員と交流を深めている。実習の受け入れをしたり、実習に出かけたりして、自施設のサービス向上の取り組みをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を基本とし、本人の困りごとや不安を和らげるような対応や声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して利用者の介護を任せられるよう、顔の見える関係性を作るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を確認し、入所も含め、色々なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒になって食事したり家事を行ったりして支え合って生活する関係を築いている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない事は家族の協力を得ながら、協力して共に本人を支えており、良い関係をつくるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の訴えに応じて外出し、なじみのお店等に出かけている。家族の協力も得て、入居者の外出意欲や、懐かしい思いに対して支援をしている。	利用者の同級生が経営している馴染みの店で買い物をしたり、ドライブして自宅の様子を見たり、家族と共に墓参りする等本人や家族の要望に出来るだけ応えるように支援している。必要に応じていつでもなじみの店で買い物できるような生活習慣を尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格やBPSDに合わせた関わりをして、入居者同士の関係が良好に保てるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族とも交流があったり、他施設へ入所された方やその家族の相談や支援も行なっている。入居者自身が他施設の入居者へ面会に出かけたりもしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との雑談や言葉から意向の把握に努めている。家族の意向や思いも含めて、本人本位に検討している。	利用者との会話や言葉から本人の想いや意向を把握し、日々の生活に活かせるように取り組んでいる。意思表示が困難な方については、家族から聴き取りをしたり、本人の表情等から意向に沿えるようにしている。職員間で共有できるように、連絡ノートに記入している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、関係機関と連携を取りながら情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、内容について検討したりして現状を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や職員ミーティング、面会時や日々の会話の中で出た思いや考え、アイデアを反映して介護計画を作成している。	入居して概ね1か月で介護計画を作成し、3か月毎に見直している。日頃の支援での気づきや会話から得た本人や家族の思いを職員ミーティングやサービス担当者会議で話し合い介護計画に反映している。短期目標は3か月、長期目標は6か月でモニタリングし、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に残し、申し送りノート等を活用し、情報の共有に努めている。介護計画の見直し、モニタリングや再アセスメント等にも記録を活かしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: グループホーム回生荘

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに合わせて対応しており、そもそも既存のサービスという考えを持っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の入居者に合わせて、できる事をしてもらい、出かけ、生き生きとした暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に訪問診察の契約を結び、往診してもらっている。それとは別にかかりつけ医への受診に対し同行介助も行っている。	入居前からのかかりつけの専門医を受診している方もいるが、本人・家族が希望するかかりつけ医として全員が訪問診療の契約をして月2回の往診を受けている。受診の際は家族にお願いしているが、都合がつかない場合は職員が同行し、受診結果は口頭や電話で家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診察医に情報を伝え、受診や往診、必要な看護等の判断をしてもらい対応している。訪問してくれた看護師にも情報を伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換を行ない、入居者の状態に合わせて医療機関と相談し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた家族や本人の考えを尊重し、できる事できない事の説明をして対応している。医療との連携や家族等の支援等できるだけ希望に沿うように対応している。	入居の際に急変時や看取りについての説明をしている。本人や家族の意思を尊重し、状態に応じたケアができるように医療との連携を取りながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や外部研修にて職員の実践力向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練を定期的に行なっている。	法人全体で年4回防災避難訓練を行っている。夜間想定は連絡網での訓練、避難経路の確認、消火器操作、緊急時の通報訓練等を行い他部署との連携を取っている。職員もできるだけ参加し、地域の消防団の協力も得ている。	地震、土砂災害、火災、水害等災害も多岐に渡ることが想定され、特に夜間は職員数も限られる中、日頃から利用者と職員が避難時の状況に慣れておくことも必要かと思われる。今後も訓練についての検討をされ充実されることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応についての施設内研修を行なっている。一つ一つの声かけや対応を検討したりミーティング等で話し合ったりして改善に取り組んでいる。	施設内研修を行い利用者の人権とプライバシーの確保について学んでいる。また、言葉かけや対応について一つ一つ検討したり話し合いを行い、日々の実践に繋げている。呼称は基本的には「さん」づけであるが、利用者の希望に応じた呼び方をすることもある。	

自己評価および外部評価結果

事業所名: グループホーム回生荘

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に声掛けを行ない希望を聞いたり確認したりしている。日常的に本人の希望や自己決定をもとに介護を行なっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他利用者との関係が悪くならないよう職員が仲介しながら、自分のペースで自由に生活できるよう支援している。利用者優先となるよう業務も定期的に見直している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは本人に確認し気に入ったものを着てもらおうようにしている。家族の協力も得て本人の好みの身だしなみができるようにしている。本人がお店にでかけ、気に入ったものを購入できるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ自力での摂取、自分のペースでの摂取ができるよう支援している。野菜の皮むきや食事の盛り付け等できる事は一緒にこなしている。下膳や食器洗いも一緒にこなしている。	献立は1週間分を予定するが、その日の食材等に応じてその都度作っている。皮むきや千切り、食器洗い等利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にこなしている。大きい物や重い物は配達を頼み、その他の食材は利用者と一緒に買い物に行っている。イベントや外出時に外食を楽しむ機会もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物を準備したり、時間に拘らずにちょっとした物を提供したりして一日の摂取量が確保できるようにしている。食事時間も特に朝食は本人の希望の時間に対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導、介助等入居者の状態に応じて対応している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意の訴えの無い方にも行動等から尿意便意を察知しトイレ誘導してトイレでの排泄を行なっている。	排泄チェック表により利用者の状況を把握し、時間やしぐさを見ながらトイレ誘導をしている。各居室にトイレと洗面台が備えてあるのでさりげない声かけや支援ができています。オムツやリハビリパンツを使用している方がほとんどであるが、現状を維持しながら、使用頻度の軽減を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食物繊維の確保、運動等なるべく薬に頼らない排便ができるよう取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に確認をして入浴を行なっている。湯温の調整や長湯など、満足できるよう努めている。希望があればいつでも入浴できるよう時運微視対応している。	利用者の希望により毎日入浴の方、午後入浴の方もある。出来るだけ利用者の希望に沿い、入浴を楽しめるように支援している。入浴チェック表があり、入浴を拒否する方には、職員配置や時間帯の調整をして週2回は入浴できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: グループホーム回生荘

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況や様子に応じ休息している。衣類や布団の調整、眠る時間等各入居者によってそれぞれ対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には目的や副作用、用法についても申し送り、確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは個々の入居者の希望に合わせて実施し、参加も自由、その他外出、畑仕事など自由でいきいきとした日々を過ごせる様支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って、なじみのお店に買い物に行ったり、家族や地域の方の協力を得て自宅に行ったり、散歩に出かけたりできるよう支援している。	日常的には職員と一緒に広い敷地内の散歩や馴染みの商店に買い物に出かけたり、自宅に行く等、家族や地域の方の協力を得ながら支援している。希望があれば1日に何回か出かけることもある。また、季節を感じる花見やぶどう狩り、紅葉見物など歩行困難な利用者も車いすを利用して家族の協力もあり積極的に外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じてお金を所持したり、買い物をしたりできるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が掛けられない方でも職員が代わりにかけて受話器を入居者に渡している。年賀状等手紙のやり取りの支援もしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に保つよう心掛け、穏やかに過ごせるようにしている。	共同制作のちぎり絵の作品が壁面に飾られ、行事写真等も廊下に掲示され活動のようすが分かり易い。居室やフロア、廊下と広々しているが目についた所はその都度モップかけし、定期的には平日の午後2部屋ずつ清掃し、清潔に努めている。光や音についても配慮し、デイサービス利用者の休憩用ベッドもあり、ゆったりと休める環境にある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや座敷、テーブル席等思い思いの場所で自由に過ごせるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や家具の配置等、本人や家族と相談しながら生活しやすいようにしている。	個室にはベッド、床頭台、トイレと洗面台が備付けてあり、本人にとって馴染みのあるタンスや小物、家族写真、テレビ等も好みにより置かれている。日本の城をイメージした建物なので、居室は障子張りの引き戸であり、落ち着いた暖かさが感じられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	やりたいことを自由にやるリスク等を家族に充分に説明し、納得してもらい自由に生活してもらえるようにしている。可能な限り安全に配慮し、無理強いはないで、できる事はやってもらうよう支援している。			